

～医療生協健文会の職員のみなさま～



Vol.29

2025年3月号

発行 地域福祉室

メロス通信 不定期便



「共同の営み」にふれるジャンボリー

3月10日にジャンボリー発案で、メロスふれんど会員の『工房 昴』さんとのコラボ企画のハンドメイドバザーが開催されました。13時を過ぎると多くの職員が来場し、一気に場が華やぎました。『工房 昴』は地域福祉室との出会いの中で、自分が勇気を出して社会参加していくために作品たちに名づけた名前です。このコラボ企画を実現させるまではご本人が口には出さないたくさんのご苦労があったと思います。

この企画でジャンボリーは患者さん（メロスふれんど）と共に活動し患者さんを応援する取り組みを、職員はジャンボリーのバザーに参加し若手職員を応援する取り組みを、そして地域福祉室は患者さん、ジャンボリー、職員をつなぎ「共同の営み」が生まれる取り組みができたのだと感じました。

ジャンボリーのみなさまご苦労様でした。



手作りの可愛い帽子やバッグ、マスコット
ジャンボリーお手製のクッキーも♡

《ちなみに…》

同日“ちょこっとしたメロスふれんどの会カンパバザー”を行ないました。6種の野菜が入った『冬に終わりをつげるお野菜と豆乳・酒かすの《健康》味噌ポタージュスープ』を数量制限のため数か所に限定して販売し一部をジャンボリーへのカンパとさせて頂きました。カレーに引き続き「濃厚でとても美味しかった」と各所で評判を頂きました。好評につき第三弾も検討中です。職場にお声がかかったときには是非お召し上がり下さい。



“メロスふれんど”が社会保障学習会で感じたこと

2月22日のメロスふれんどの会では、新聞記事を読み合わせ『国家予算作成における軍拡・社会保障削減がもたらす私たちの暮らし』について意見交換しました。

参加者からは「アメリカから高い兵器を買わされて軍事費が高くなっている」「食料も電気も何もかもが高騰して、まともな暮らしができない」「これだけ生活が苦しいのに消費税10%はおかしい」「就職氷河期世代は今も非正規雇用から抜け出せずに生活が苦しい。テレビでいう年収500万なんか考えられない」と怒りの声が上がリ、軍拡より先に今の暮らしを救済すべきだと意見が交わされました。また社会保障制度については「暮らしに必要な情報が届いていない」「手続きが分かりにくく書類も多い。市役所に出かけることさえ重荷で、申請できない人も多いと思う」「話ベタな自分は聞くことすらできなくて申請を諦めることもある」と制度利用にたどりつくまでの難しさが話題になりました。

学習会全体を通して分かったことは、「大切なことが当事者に届いておらず、制度の利用どころか国政に参加する権利さえも奪われている」ということです。そして「黙っていたら状況は何も変わらない」「学びあって、みんなで考えて行きたい」と意見が出され、2ヶ月おきに学習会を行うことになりました。



県連ソーシャルワーク委員会

『ケアの倫理カンファレンス』の開催を検討中です。このカンファレンスの目的は、事例の直接的な問題解決を目指すのではなく、思いやり、支え合い、愛情にあふれた『ケア』の本質を探ろうというものです。追って詳細をお知らせします。

《ランチメニュー》
貝だくさんお味噌汁
菜っ葉ごはん
キャベツの味噌ゴマあえ
なます おでん いちご

